

要 旨

本稿では、景気循環の現況をとらえる方法として、現在、一般的となりつつある Markov switching dynamic factor model を日本の景気指標を用いて推計した。ここでの推計方法は、日本の一致 diffusion index を作成する際に用いられていて、かつ月次で利用可能な 10 指標のうち 4 指標を選ぶこととし、10 の組合せで推計した。

この推計によって得られる、景気の拡張期と後退期を示す state の確率は、4 指標の選び方によっては、過去の景気基準日付と比較的合致した変動を示すことが分かった。中小企業売上高、百貨店販売額や商業販売額指数などを入れた結果は、よいパフォーマンスを示している。

本稿での結論は、日本の一致 composit index について、用いる指標を注意深く選択することで、かなりの程度、景気の現況判断と予測をする上で、よいパフォーマンスを得ることが出来るというものである。製造業の指標の重要性は、これまでの研究が指摘してきたとおりであるが、中小企業の指標や、日本では包括的な指標とみなされていない販売にかかわる指標も、用いる指標の組合せによってパフォーマンスの向上に貢献し得ることは、注目すべき結論といえる。

キーワード：Business cycles, Factor model, Markov switching, Kalman filter